

会議の概要

会議の名称	令和8年度第2回 あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会
開催日時	令和8年10月1日（木） 午後2時
開催場所	あま市役所2階A会議室
議 題	(1) 第10期あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画骨子（案）について
会 議 資 料	1. 次第 2. あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員名簿 3. 第10期あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画骨子案 4. 参考資料 第9期計画施策実施状況 5. あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会の開催について（議事録に日時記載のため資料添付せず）
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数 （公開した場合）	0人
出席委員	加藤 昭宏 下方 辰幸 覺前 淳 野口 隆 笹山 聡 井村なを子 杉藤 一夫 小林 優太 中島まどか 杉本 吉之
欠席委員	服部 章平
事 務 局	高 齢 福 祉 課 長 國 立 主 幹 高 木 課 長 補 佐 小 林、岩間、近藤 係 長 杉本、石川 主 任 犬飼 健康推進課課長補佐 植田 保険医療課課長補佐 加藤 委 託 業 者 安村、丹羽（Next-i 株式会社）

議事内容

事務局	本日は大変ご多忙のところ、令和８年度第２回あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。 定刻となりましたので、ただいまより始めさせていただきます。 今回の策定委員会は『あま市審議会等の会議の公開に関する要綱』第３条に基づき公開で開催いたします。また、同要綱第７条に基づき、本日の策定委員会終了後、会議録を作成し、市公式ウェブサイトへ会議録を掲載することとなっておりますのでご承知ください。 本日、傍聴人はございませんので、ご報告いたします。 また、本日、服部委員からご欠席の連絡がございましたので、この場で報告させていただきます。 はじめに、加藤委員長よりご挨拶をお願いします。
委員長	あいさつ
事務局	ありがとうございました。それでは、ここから着座にて失礼します。 まず初めに、資料の確認をお願いします。 １．次第 ２．あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員名簿 ３．第１０期あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画骨子案 ４．参考資料第９期計画施策実施状況 ５．あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会の開催についての５点でございます。 なお、第１０期あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画骨子（案）につきましては、本日、カラー刷りの資料をお配りしておりますので、そちらでご確認ください。 また、本日この委員会におきましては、あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定業務を委託しております、Next-i 株式会社の安村氏・丹羽氏を同席させていただいておりますので、ご承知いただきますようお願い申し上げます。 それでは、議題に入らせていただきます。 これより議事の進行を加藤委員長をお願いいたします。
	それでは、議事の進行をさせていただきます。 では、「議題（１）第１０期あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画骨

委員長	子（案）について」を議題とします。 事務局から説明をお願いします。
事務局	資料に沿って説明
委員長	ありがとうございました。 今の説明において、ご質問はありませんか。
委 員	42ページの基本目標「4 安心・全な生活のための支援」について、「高齢者の外出や社会参加、通院、買い物等を支える移動手段の確保」とありますが、高齢者になると免許返納等色々なことがあります。 あま市は名鉄が走っていて、名鉄バスも走っていますが、それで外出ができるのかというと、外出できません。 今の巡回バスは週に半分しか走っていない状況で、それを利用するのはなかなか難しく、たまたま自分の用事とバスの運行が合えば良いですが、行きたい時に行くというわけにはいきません。 そのため、「移動支援の在り方を検討します」ではなく、もう一步進んだ表現を、例えば市長もオンデマンド交通と仰っており、アンケートでも外出支援の要望は多かったと思いますので、もう少し進めた、前向きな表現に出来ないのかと思いました。
委員長	ありがとうございます。 仰る通り、前回いただいた課題分析レポートの方でも移動支援の要望や、特に生活困窮にかかるとさらに難しいようなご意見が多々あったかと思います。 今の書きぶりや、その後の具体的な記述もこれからあるかと思いますが、今の段階で何か検討しているお考えは何かありますか。
事務局	委員が仰る通り、高齢者の移動、いわゆる足の確保がアンケートでも非常に課題があるとされています。 また、市長もデマンド交通の導入を公約で掲げており、公共交通の在り方として今現在検討が進められているところでございます。 そこを踏まえ、実際に検討を進めていることから、「在り方を検討します」と表現をしましたが、更に進んだ形でというご意見をいただきましたので、公共交通の検討状況を踏まえ、どのような表現ができるか検討し、次回の素案の提出の際に、事務局の検討結果の内容を反映できればと思います。
委員長	ありがとうございます。 その他、ご意見ご質問いかがでしょうか。
委 員	41ページの基本目標2「生きがい活動と社会参加の推進」について、2段目で社会福祉協議会やシルバー人材センターが記載されていますが、老人クラブも入れてはどうでしょうか。 多数の市民が参加しており、市としても大きな高齢者の社会参加を占めている部分は大きいと思います。 また、基本目標でシルバー人材センターは書いているので、そのように思いました。
事務局	老人クラブは多数の高齢者にご参加いただいている会であり、任意の会

	として、老人クラブが高齢者の集う最大の会ということは承知しておりますので、前向きに入れていく方向で検討します。
委 員	事務局から説明がありましたが、老人クラブとしては、全国的なスローガンに「健康・奉仕」が含まれており、４２ページの「生きがい活動と社会参加の推進」にて、高齢者が「ボランティア活動等の多様な社会活動に参加する機会を確保」と謳っているのも、老人クラブはあくまで日常の中で活動している任意団体であり、日常の地域内の清掃活動や奉仕活動は日常で行っていることであり、これは一般に認知されている活動です。 かたや、社会福祉協議会やシルバー人材センターは、公共的な組織ということで、それとは違うと思います。 社会福祉協議会の活動の下に老人クラブも入っているため、こういった表現でも支障はない、市民の方にもわかっていただけるのではと理解しています。
委員長	ありがとうございます。 あえて前面に入れなくてもいいということでしょうか。 この辺りは事務局にご判断いただければと思います。 では、その他ご意見いかがでしょうか。
委 員	４１ページと４３ページについて、基本目標１が「健康づくりと介護予防の推進」に変わり、４３ページの施策の柱の中に、１－３「地域活動への支援」に改め社会参加の支援も含めているという説明だったかと思いますが、４１ページ「健康づくりと介護予防の推進」の記述の中に、そういった趣旨がどう反映されているか読み取りづらいと感じます。 基本目標の書きぶりの中で「地域活動への支援」がどのように表現されているのか補足でご説明していただきたいです。
事務局	ありがとうございます。 現行計画では、「ボランティア団体、ＮＰＯ法人、民間企業など多様な主体が参画し、協力を通じて地域全体で高齢者を支えていくことが求められています」ということで、どちらかというと市民の方に対して総合事業の参画促進を発信していましたが、主体性をもって取り組んでいただいているＮＰＯ法人、民間企業、地域団体について、参画促進に対して市としても支援をしていくということをご説明しましたが、委員が仰るように、基本目標の文言と、私どものお伝えしたい内容が違っていました。 こちらについて、事務局でしっかりとした文が作れていなかったため、改めて文章を作り直したいと思いますので、次回の委員会までご猶予をいただければと思います。 ご指摘ありがとうございます。
委 員	何となく、今回の文言であれば、基本目標２や３の方がしっくりくるのかなと思います。
委員長	ぜひよろしくをお願いします。 皆様考えていただいている間に私からもよろしいでしょうか。 確認ですが、以前お示しいただいた課題分析レポートの内容は計画に載

	せる予定はありますか。 それとも、内部資料という形になるでしょうか。
事務局	そのままの形で掲載することは考えておりません。 あくまで課題を分析するためのもので、会議資料用に作成したものであり、そのまま掲載するということは現在予定にございません。
委員長	前回も話しましたが、すごく良い分析がされていて、例えば、前回論点で挙げた、経済的な困窮と外出が難しいというクロス集計や、働きたいけど働けない環境にない方が、経済的な困窮のクロス集計をすると「苦しい」の方が最も多かったなど、課題が顕著に現れている部分をデータとして載せていく予定はないでしょうか。
事務局	ありがとうございます。 委員長のご提案につきまして、前回の課題分析レポートの数値を載せるかといったご質問ですが、あくまでこれをどう活かすかというところなので、アンケート結果としては、策定委員会等の資料としてホームページにて閲覧はできますが、計画の数値として、言葉では表現できると考えていますが、レポート自体を掲載する予定は今のところはございません。
委員長	わかりました。 個人的にはこの辺りを寧ろ載せるべきではないかと考えていたので、事務局のご判断にはなりますが、一意見として載せた方が良いのではと意見を表明させていただきます。 また、前回のこのクロス集計で、特に本市の中で支援が必要な方々ではないかということが見えてきたかと思いますので、そのクロス集計で見えてきた部分と、施策の具体の重点を連動させる形でご検討いただけるよう、先日の打ち合わせの中でお願いしていた次第です。 評価に関して、前回お伝えしたように、評価指標等の中でクロス集計の数字を定め、例えば、移動に関してどの程度この計画で改善できるのか、経済的困窮に関して介護が必要であるがゆえに働きたいけど働けない方にどの程度支援が届くのか等、評価指標の全てでなくても良いと思いますが、今回のレポートを基に評価指標を検討いただきたいと思います。
委 員	あま市の高齢者に対する福祉計画ということで、数々の統計的な資料を載せていただいていますので、これを見れば何が大きくて何が小さいかは分かりますが、骨子案なのでここで表現するかどうかは別として、あま市の高齢者に対する支援・支給額が他市町村に比べて多いのか少ないのか、この数字を見るだけでは分かりません。 次の具体的な資料が出る時に、そういったものを出していただければと思います。 数字を見るだけでは、「あま市はこうだ」ということは分かりますが、他市町と比較して高齢化に対する市としての助成や支給などの金銭的なものがどうなっているのか、比較してどうなのかということが垣間見えると、具体的で良いのかなと思いますので、ご検討いただければと思います。
委員長	ありがとうございます。

	今の点に関して、現時点でこのようなデータを閲覧できる場所がありますか。
事務局	はい、ありがとうございます。 本日の資料には他市と数値で比較するようなデータは載せておりませんが、計画策定の資料として扱っている「見える化システム」を用いて他市と比較することは可能です。 冊子としてまとめていくにあたり、どの程度の他市との比較した情報を掲載するかは検討するところではありますが、何らかの形であま市の特徴を分析し、比較していくことも検討します。
委 員	何故このようなことを申し上げたのかというと、あま市は高齢者の福祉を含め、他市町村と比べ支援の金額が大きいものがあると聞いたことがあるので、そうであるならば、市としてはこういったところに力を入れて支援しているということをアピールできると、市民へのアピールにもつながるのではないかとということで発言させていただきました。
委員長	ありがとうございます。是非検討いただければと思います。 その他、いかがでしょうか。
事務局	先ほどの委員長の発言にも関連するのですが、計画の第２章が現状の課題となっていますが、読んでみた実感として課題が何なのかがもう少しはつきりわかると良いと思います。 載せられるものと載せられないものがあると思いますが、今は事実ベースに数字を読み取ったものを書いてあり、その中でも「課題として捉えなければならないものは何なのか」、「その課題に沿って次の計画がどうなるか」といった繋がりが見えやすくなると良いのかなと思いました。 関連して、２５ページの図表「第９期計画の指標と実績」については、別途配られている参考資料を見ないとデータとしてわかりづらいと思ったので、この部分の説明や補足がもう少しあっても良いと思います。
委員長	ありがとうございます。 今の件、大事なテーマかと思いますがいかがでしょうか。
事務局	はい、ありがとうございます。 参考資料として配付した理由としても、まさに第９期の取組として変動があったものを編纂してまとめております。 確かに、本編だけを見てもなかなか分かりづらいというのはご指摘のとおりかと思いますので、ピックアップして説明を加えられるものは説明を入れていければと思います。 また、もう一点のご指摘の課題に関しては、もう少し課題感を示した上で、それに対してどのように取り組んでいくのかを分かりやすい形にできないか検討してまいります。
委員長	ありがとうございます。 課題に関しては、先ほどの移動の件や、参加できるのに送迎がなくて参加に繋がらないということも出てきましたし、働きたいのに働けない、或いは、それに伴って経済的困窮が参加にも移動にも拍車をかけていること

	が大きな課題の一つとして挙がっているかと思いますが、そこをぜひ載せていただけると良いのかなと思って聞かせていただきました。 その他、いかがでしょうか。
委 員	ご質問させていただきます。 25ページの計画の評価に関して、基本目標3の地域ケア会議の実施回数が目標値25回に対して実績6回となっており、他の数値と比べて実績が目標に数字が届いていないと感じますが、こういった背景で数字が乖離しているのか教えていただけますか。
事務局	地域ケア会議については、目標を25回としていた経緯は不明ですが、ケースは多ければ良いというものでもありません。 令和7年度にケースが少なかったことは、問題がなかったと考えることもできますので、次回はこれに関して検討する必要があると考えます。 多いから良い、或いは少ないから良いというものでもないものを指標としておりますので、6回だから悪いのではないかと、開催しなければならないわけではなく、基本的には内容が重要だと考えており、6回の中でしっかりと検討してやっていけば、6回でも十分であり、開催回数としてはこの実績でも良いと考えています。
事務局	この結果が出たことで回数が少ないから良くないのではないかとと思われるのではないかとすることは感じています。
委 員	単純に対象ケースが少なくて良かったということなのか、本来あり得るものが拾い切れていなかったということなのか、どちらなのでしょう。
事務局	基本的に個別ケース会議といった、担当者会議のような小規模でやっているところで、個別ケース会議としてはカウントできていないものもあると思います。
委員長	評価指標のたて方はすごく重要になってくると思います。 アウトプット指標だと数値が高ければよい、低ければ悪いという話ではなくなると思うので、例えば、アウトカム評価や、クロス集計の視点を取り入れるなど、本年度は評価指標のたて方についてもご検討いただけると、さらに良いかと思います。 その他、前回の課題分析レポートで、ケアマネジャーの業務の線引きがなかなか難しいということや、8050 支援等への対応が難しいというご意見、ご質問等があったかと思います。 こういった点に関して、ケアマネジャーの視点からみて、いかがでしょうか。
委 員	そうですね。 8050 問題のところ、先ほど話にあがった、働きたいが働けないということが、もう少し分かるようにすると良いのかなと思います。
委員長	ありがとうございます。 では、事務局から前回の認知症の方の受診と年数のデータ件についての追加の報告についてお願いします。
事務局	前回、委員からご質問いただいていた介護予防・日常生活圏域ニーズ調

	査における「認知症を疑ってから、認知症専門医のいる医療機関を受診するまでに、どのくらいの期間がかかりましたか」という設問の回答結果が、1年未満が約4割ということで、厚生労働省の調査結果と乖離があるのではないかとご質問いただきました。 前回、受診した方にお伺いしたにも関わらず、無回答が約半数であったという返答をさせていただきましたが、こちらの集計は本来、認知症の専門医がいる医療機関を受診したと回答した方を対象に、認知症を疑ってから専門医がいる医療機関を受診するまでに、どのくらいの期間がかかったかを集計するものでしたが、「いいえ」と回答した方も含めて集計されていたため、無回答が多くなっておりました。 本来であれば、受診したと回答した方のみを対象として集計する必要がありましたので、無回答が多い理由については、申し上げた通り「いいえ」（受診していない）と答えた方も含めて集計をしてしまったということがございましたので、訂正させていただきます。 なお、認知症を疑ってから受診するまでの期間について、各選択肢の回答数には特に変更はありません。 結果として母数が少なくなった分、より1年未満に受診した方が75%、1年以上かかった方が22%となり、厚生労働省やその他の機関の調査結果とさらに乖離する結果となっております。 こちらにつきましては、今回初めて入れさせていただいたアンケート項目になりますので、次回計画策定の際にも取り入れ、その結果を見て、市の特性が出たものなのか、単に今回アンケートに回答された方の中で早く受診をされた方が偶然多かっただけなのかを分析していきたいと思っております。
委 員	こちらの結果は発表するのでしょうか。
事務局	はい、内容については修正させていただきます。 しかし、公開する策定委員会の議事録に、修正したものを入れてしまうと、読んだ方が理解できなくなってしまうので、成果物としては修正させていただきますが、策定委員会の議事録としては、誤った集計の資料をそのまま掲載したいと考えております。
委 員	今回の結果は、厚生労働省の全国統計とかけ離れていて、我々としてはあり得ないような数値だと思います。 あま市の方々に、受診を進めていく立場の資料としては、既に十分に受診がなされており、世間の常識から外れてあま市が特別に優れていると、事情を知らない一般の方に受け取られてしまうことが心配です。 もし公表となれば、ただし書きを付けるか、この集計自体に疑問が残ることを提案し、踏み込んだ分析を控えることも考えられるのではないのでしょうか。
事務局	集計結果については、資料として掲載するものではなく、公表することはありません。 議事録としてこうしたやり取りがあったことは既に公表しております

	が、この資料をそのまま公表するということではありません。
委 員	ここにいらっしゃる皆さんがそういった理解をしていただければ安心です。
副委員長	参考資料の基本目標４「救急医療情報キット事業」について、これは民生委員が高齢者のお宅に、高齢者台帳の調査の時に配布しました。 このキットの成果報告はあるのでしょうか。 民生委員はずっと皆さんのお宅に配布してきましたが、今回「廃止」と書いていますが、効果が無かったということでしょうか。
事務局	廃止という表現は、マイナスのイメージに受け取られるかもしれませんが、皆様に長年にわたり配布いただいたことで、十分に配布が行き届いたことと、配布期間が長かったことで、内容が更新されないまま、古い様式が行き届いてしまっているという現状もあります。 キットの新規作成は行っておらず、配り終えた時点で終了という形を取りたいと考え、このような表現となりました。 今までご協力ありがとうございました。
委 員	昨年までは６５歳以上、今年からは７５歳以上の方を訪問していますが、毎年調査を行った際に、必ずキットの中の医療情報を新しいものに差し替えるようお伝えしていて、薬などの情報は、一度入れるとそのままになっていることが多いため、年に１回の訪問ではありますが、お会いするたびに更新をお願いしています。 このシステムは非常に良いものだと思います。 キットをお持ちすると、皆さん喜んでくださいます。 筒に個人情報や緊急時の情報、持病、かかりつけ医、処方箋等を入れて、冷蔵庫で保管するキットで、キットがその家にあるか無いかは玄関の内側にシールを貼っておくことで、消防署が冷蔵庫に入っているキットの存在をお話しできない方でも確認でき、情報を把握できます。 私達は、このキットを一生懸命配布し、訪問先では情報を新しく更新するようお伝えしてきたので、今回「廃止」と聞き、少し寂しく感じました。 効果が出ていないために廃止するのかを確認したかったのですが、キットがなくなるということなのですね。
事務局	今のところ、在庫がなくなり次第、終了となります。
委 員	いつも、安心・安全の持ち運びのできる小さなシール等もお持ちして、個別に説明していました。 保険証と一緒に保管すると良いことや、かかりつけ医などを記入して携帯することも、お伝えしているので、今回このキットがなくなることを寂しく感じ、お聞きしました。
委員長	これは完了という形で在庫がなくなったら終了で良いのか、やっぱり継続した方が良いのか、どうなのでしょう。
委 員	皆さんに需要があり、次の世代に新しい対象が出てくるはずなので、在庫がなくなったらやめてしまうようなものではないような気がします。
委 員	中にはご家族のものを差し替えて使っている方もいると伺っています。 この取組はとても良いと思いますので、考慮していただきたいです。

委員長	関連してお話しますと、「命のバトン」という形で、他自治体でもこういった取組はかなり大事にされており、特に2040年を見据えることを考えると、単身の高齢者がかなり増えていくと考えられます。 私が会議に参加している他自治体では、社会福祉協議会が配布している「命のバトン」のような取組と、医療側が求めるものがダブルスタンダードになっており、実は医師の方々から「命のバトンがあっても、あまり使っていない。」という話を伺いました。 そこでは、むしろ一本化できると良いのではないかという議論をしておりました。 あま市では、ドアの内側の表示でキットがあることが分かり、救急隊もその情報をきちんと確認するという運用がなされているのであれば、2040年を見据え、むしろ維持・継続しても良いのではないかと、私の一意見として感じたところでございます。 では、その他いかがでしょうか。 ご質問が無いようですのでこれで議事を終了し、進行を事務局にお返したいと思っております。ありがとうございました。
事務局	ありがとうございました。 続きまして、「3. その他」でございますが、委員の皆様、何かございますか。
委員	私事で恐縮ですが、私が務めておりました認知症疾患医療センター長を、今月から仲秋に交代いたしました。 本日は私が出席しておりますが、次回からは仲秋が出席することになります。 少し寂しい気もいたしますが、今後は仲秋をよろしくお願いいたします。ありがとうございました。
事務局	それでは、事務局から次回のスケジュールについてご案内を申し上げます。 次回の「あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会」の開催につきましては、委員の皆さまのお手元に案内文を置いてございますが、令和8年11月25日（水）14時より、あま市役所2階B会議室にて開催いたします。 議題につきましては、本日皆様からご意見をいただきました本計画骨子案に肉付けさせていただいた素案を皆様にご審議いただき、それに伴うパブリックコメントの案をお示しできればと考えておりますので、ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。
事務局	以上をもちまして、『令和8年度第2回あま市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会』を閉会いたします。 本日はありがとうございました。